

2024年3月13日  
株式会社 BookLive

“マンガのキャラクター”を讃える「マガデミー賞 2023」、  
主演男優賞に『薫る花は凜と咲く』紬 凜太郎さん、  
主演女優賞に『海が走るエンドロール』茅野 うみ子さんなど、  
全6名と1作品の受賞を発表！

助演男優賞を『葬送のフリーレン』ヒンメルさん、助演女優賞を『アオアシ』一条 花さんが受賞  
特別審査員・ハナコ「カリスマに限らず、身近なキャラクターへもスポットライトが当たるように」

TOPPANホールディングス株式会社のグループ会社である、株式会社 BookLive（本社：東京都港区・代表取締役社長：淡野 正）は、“マンガのキャラクター”を讃えるマンガのアワード「マガデミー賞 2023」の受賞キャラクター・作品を発表いたします。

特設サイト：<https://booklive.jp/magademy-award>

「マガデミー賞 2023」では、＜主演男優賞＞に『薫る花は凜と咲く』の紬 凜太郎（つむぎ りんたろう）さん、＜主演女優賞＞に『海が走るエンドロール』の茅野 うみ子（ちの うみこ）さん、＜助演男優賞＞に『葬送のフリーレン』のヒンメルさん、＜助演女優賞＞に『アオアシ』の一条 花（いちじょう はな）さん、＜審査員特別賞＞は『気になってる人が男じゃなかった』の古賀 みつき（こが みつき）さん・大沢 あや（おおさわ あや）さんがペアで受賞しました。また、このたび新設された＜作品賞＞は『スキップとローファー』が受賞し、全6名と1作品の受賞が決定いたしました。

マガデミー賞 2023  
MAGADEMY 受賞キャラクター・作品発表  
AWARD

主演男優賞  紬 凜太郎 『薫る花は凜と咲く』	主演女優賞  茅野 うみ子 『海が走るエンドロール』	助演男優賞  ヒンメル 『葬送のフリーレン』	助演女優賞  一条花 『アオアシ』
審査員特別賞  古賀みつき・大沢あや 『気になってる人が男じゃなかった』		作品賞  『スキップとローファー』	

『薫る花は凜と咲く』©三番見サカ/講談社 『海が走るエンドロール』©たらちねジョン(秋田書店)2021 『葬送のフリーレン』©山田健人・アベツカサ/小学館 『アオアシ』©小林有吾/小学館  
『気になってる人が男じゃなかった』©新井すみこ/KADOKAWA 『スキップとローファー』©高松美咲/講談社

【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社 BookLive 広報・PR 担当：井ノ口、西村、尾崎 e-mail：[booklivepr@booklive.co.jp](mailto:booklivepr@booklive.co.jp)

「マガデミー賞」は、毎日の勇気や感動、そして豊かさを与えてくれるキャラクターたちを讃えることを目的に、2021年に設立されたアワードです。私たちは、会社や立場の枠を越えて、キャラクターや作品への感謝や敬意、さらなる躍進を応援する文化の醸成を目指し、この「マガデミー賞」を創設しました。

開催3度目となる今年度は、マンガのキャラクターとともに、作品単体でも推薦することが可能となりました。

審査では約1ヶ月間の一般のマンガファンの方々から特設サイトおよびX（旧：Twitter）でいただいた推薦をもとに、16名のノミネートキャラクターと5作品を選出※。経験豊富なマンガファン揃いの書店員と、特別審査員による厳正なる審査を経て、受賞キャラクター・作品を決定いたしました。※ノミネートにご快諾いただいたキャラクター・作品を対象としています。

本プレスリリースでは受賞キャラクターと審査員たちからの評価コメントをご紹介します。なお、評価コメントはわかりやすいように一部あらすじなど補足を入れてご紹介しています。

「マガデミー賞」がマンガ業界を盛り上げる新しい文化になり、マンガのキャラクターたちのさらなる躍進と繁栄になることを願っています。



### <主演男優賞> 紬 凜太郎（つむぎ りんたろう）『薫る花は凜と咲く』



#### ■ 紬 凜太郎さん 受賞コメント

皆さま初めまして。

千鳥高校2年の紬凜太郎といたします。

こんな光栄な賞をいただけるなんて想像もしていませんでしたが、和栗さんや仲間みんなに出会えたおかげだと思っています。

本当にありがとうございました。

#### ■ キャラクター紹介

紬 凜太郎さんはおバカが集まる男子校に通う高校2年生です。金髪にピアス、目つきが悪く、強面で高身長という見た目から、初対面の相手に怖がられたり、ガラの悪い人たちに喧嘩を売られたりしがちです。見た目のせいで誤解されることの多い凜太郎さんですが、実は人一倍真っすぐで優しく、相手を思いやることができる人物。ある日、実家のケーキ屋の手伝い中、お客さんとして来ていた少女・和栗 薫子さんと出会います。人を見ただ目で判断しない薫子さんの優しい人柄に触れることで、凜太郎さんの心境に変化が生まれます。周りに否定されてきた過去から、誰にも心を開くことができずにいた凜太郎さんが、薫子さんとの出会いによって自分を変えようとする姿勢や、友人や恋人のために真っ直ぐに行動する純粋さが、見ている人の心に響きます。

#### ■ 評価ポイント

紬 凜太郎さんは、周囲の人との関わりから臆病だった自身の殻を破って変化を続ける姿勢や、友人や恋人のために真っ直ぐに行動する純粋さに、共感や応援の声が集まりました。

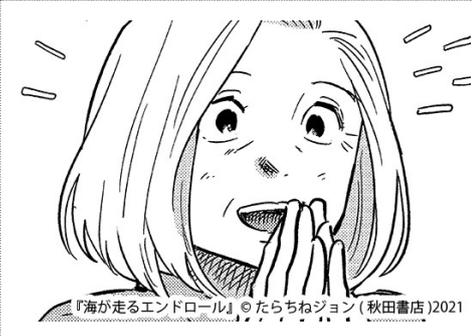
- 友人との掛け合いや、甘酸っぱい恋模様から、「高校生に戻りたい」と感じさせてくれる。等身大な高校生の恋愛や葛藤や悩みを見守り応援したくなる。
- 恋人に対しても、友達に対しても真っすぐな主人公が眩しい。初恋や友人との関わりにより、内面から変わっていく姿に勇気をもたらす。相手への思いやりの気持ちと、自分自身にも他人にも素直でいることが大切と教えてくれている。

【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社 BookLive 広報・PR 担当：井ノ口、西村、尾崎 e-mail：[booklivepr@booklive.co.jp](mailto:booklivepr@booklive.co.jp)

- お父さんお母さんが感極まるシーンに共感。もっと大切なものができた、と金髪を黒く染めることを決めたことには心打たれた。

## <主演女優賞> 茅野 うみ子 (ちの うみこ) 『海が走るエンドロール』



### ■茅野 うみ子さん 受賞コメント

茅野うみ子です。  
主演女優賞、まさか自分が出る側で賞をいただく事になるとは…ありがとうございます。  
これからもより良いものを撮って、作ってみたいです。  
応援の程よろしくお願いします。

### ■キャラクター紹介

茅野 うみ子さんは、美大生である濱内海（はまうち かい）さんとの映画館での出会いをきっかけに、自分が「映画を撮りたい」と思っていたことに気づき、65歳を過ぎてから美大に通うことを決意します。彼女は入学後の映像実習で、監督として映画を撮影することになるも、同じグループの生徒たちとの熱意の差や、自分が撮りたいものと完成した映像との乖離にモヤモヤとした気持ちを抱えます。しかし、そんなとき「映画を撮りたい」という気持ちで繋がった海さんと時間をともにすることで、映画を撮ることへの元氣を取り戻します。何歳になっても新しいことにチャレンジすること、自分自身と向き合うこと、新たな友達と出会うことへの勇気をくれる、心優しい物語の主人公です。

### ■評価ポイント

茅野 うみ子さんは、気づかないうちに蓋をしていた創作活動への情熱に触れて、穏やかな日常から抜け出し、年齢を言い訳にせず新しいことを始めるチャレンジ精神やエネルギーに、背中を押された、勇気をもらったという声が上がりました。

- 65歳を過ぎ、夫と死別した後に新たな挑戦として映画を撮り始めるというキャラクター性が時代に合っている。晩年のあり方として素晴らしい。
- 同年代の方は「歳を重ねても夢を追っていい」、下の年代の方は「彼女より若いのだから、今から始めても遅くない」と、幅広い年齢層に勇気を与えてくれる。
- 「映画を観る人を観るのが好き」というエピソードが、お笑いライブや寄席で後列に座ってお客さんの笑う姿を見るのが好きな自分と重なった。創作活動をする方は特に、初心を思い出したり背中を押されたりされるはず。

## <助演男優賞> ヒンメル 『葬送のフリーレン』



### ■ヒンメルさん 受賞コメント

受賞ありがとう。対価はフリーレンが受けとるさ。千年は保つくらい丈夫な賞を作ってくれ。

### ■キャラクター紹介

かつて勇者として世界を救ったヒンメルさん。魔王を倒し、天寿を全うした彼ですが、過去の活躍は、今も旅を続けるフリーレンさんや、彼に救われた人々を通して私たちにも伝わってきます。勇敢でありながらとても親しみやすい人柄で、困っている人を放っておくことができない性格。まさに「勇者」という言葉に相応しい人物でした。『葬送のフリーレン』は、ヒンメルさんの死後、長寿のエルフであ

【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社 BookLive 広報・PR 担当：井ノ口、西村、尾崎 e-mail：[booklivepr@booklive.co.jp](mailto:booklivepr@booklive.co.jp)

るフリーレンさんが、「人間をもっと知ろう」と思い直し再び旅をする物語です。二度目の旅を通して、フリーレンさんは、ヒンメルさんが生前どれだけ自分に影響を及ぼしていたのかに気づくことになります。死後もなお、『葬送のフリーレン』という、フリーレンさんの旅の物語を支える名助演キャラクターです。

### ■評価ポイント

ヒンメルさんは、フリーレンさんの回想シーンでの登場が中心で出演回数が少ないものの、エピソードを重ねる中でその個性が徐々に明らかになり、主人公であるフリーレンさんに大きな影響を与える人物として作品全体を形作る唯一無二な存在であることから、助演男優賞に相応しいと賞が贈られました。

- フリーレンさんのエルフとしての悠久の時間のうち、一瞬である10年をかけがえのないものにした功績は大きい。
- 回想を通して知ることのできるヒンメルの姿はとても前向きで、かつて旅をした各地でも彼を慕う人がいる。亡くなってはいるが、ずっと作品を支えている。

### <助演女優賞> 一条 花 (いちじょう はな) 『アオアシ』



#### ■一条 花さん 受賞コメント

ピッチで戦ってるみんなじゃなくて、応援しかできない私を受賞できたことに驚きです！  
ありがたく頂戴いたします！

### ■キャラクター紹介

主人公・青井 葦人 (あおい アシト) さんが所属するサッカーチームの監督の義理の妹である一条花さん。サッカーの知識はないものの、葦人さんのプレーに惚れ込み、自ら葦人の「世界最初のファン」を宣言し、日々の献立作りから葦人をサポートするようになります。明るく天真爛漫な花さんですが、「頑張れ。人間は考える葦である。」と、時に印象的な言葉で葦人さんを勇気づけ、新しい気づきを与えます。そして葦人さんを応援するだけでなく、花さん自身も世界的なスポーツドクターになるため、高校生のうちからスペインへの留学を決意。その行動力に刺激され、葦人さんにとっても大切な存在になっていきます。ただサポートするのではなく、自らも努力し成長しようとする彼女に、葦人さんだけでなく我々読者も頑張る力をもらえます。

### ■評価ポイント

一条花さんは、サッカークラブのユースチームに所属する主人公の青井葦人さんの「世界で最初のファン」と自称する通り、葦人さんへの懸命なサポートや背中を押す言葉の数々に加え、彼女自身も目標を持って努力する姿に賞賛が集まり、助演女優賞が贈られました。

- 夢に向かって努力する主人公が壁にぶつかった時に、彼女が送るシンプルで力強い言葉が「応援は力になる」ことを教えてくれる。主人公に気付きを与えるだけでなく、相互に影響し合う関係性が魅力的。
- 主人公への恋愛感情を自覚しつつも、夢を邪魔しないように応援すると線を引き姿勢にも芯の強さを感じる。それぞれの夢に向かう二人を、時間をかけて見守りたいと思わせてくれる。

---

【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社 BookLive 広報・PR 担当：井ノ口、西村、尾崎 e-mail：[booklivepr@booklive.co.jp](mailto:booklivepr@booklive.co.jp)

## <審査員特別賞> 古賀 みつき (こが みつき) ・大沢 あや (おおさわ あや)

### 『気になってる人が男じゃなかった』



#### ■受賞コメント

古賀 みつきさん：え?! この特別賞って2人一緒にもらっていいんですか？  
す、すみません、私なんか…というか大沢さんがいなかったら私はこんなモノ……

大沢 あやさん：あーもう!!////

古賀さん、黙ってもらっとけ!!ありがとうございます!!

#### ■キャラクター紹介

古賀 みつきさん・大沢 あやさんは同じクラスの高校2年生です。古賀さんは小さいころからロックが好きで、叔父が経営するCDショップでアルバイトをしています。学校では、音楽をはじめとする自分の趣味が周りと違うことを気にして目立たない格好をしている彼女ですが、アルバイト中は黒マスクにストリートカジュアルな服装で、まさにイケメン。偶然入店したクラスメイトの大沢あやさんに男性と勘違いされ、更には好意を持たれることとなります。一方のあやさんは、キラキラした外見とコミュカの高さから男女ともに好かれる人気者ですが、音楽の趣味が周囲とあわないことに対する寂しさや諦めを感じている一面も。陰と陽で、対照的なふたりが音楽という共通の趣味をきっかけに惹かれ合う姿や、自分の好きなものを好きと貫く姿勢には、ときめきと活力をもらいます。

#### ■評価ポイント

審査員特別賞では、審査員の意見も分かれ白熱した議論が起こりました。女子高校生2名が主演の『気になってる人が男じゃなかった』からは、古賀みつきさん・大沢あやさんをそれぞれ推薦する声も上がり、最終的には「2人の関係性を讃えたい」という審査員一同の想いから、異例のペア受賞となりました。

#### <古賀 みつきさん>

- 今どきの若者特有の雰囲気があり、多様性を感じる。お互いの愛情が眩しく輝いており、勇気や元気をもらえる。

#### <大沢 あやさん>

- 自分の好きなことを共有できると分かった瞬間や、推しに会うためにソワソワしてしまう所。好きなこと（音楽）が友達から共感されないからといって、安易に大衆に寄せず、自分を持っている姿が素敵。

## <作品賞> 『スキップとローファー』



#### ■作者・高松美咲先生 受賞コメント

このたびは作品賞に選んでいただきありがとうございます。

1月に、能登半島で大震災が起きました。作中出てくる美津末の故郷として登場した風景のほとんどが失われました。

被災された方々の穏やかな時間を取り戻すまでには、本当に長い時間を要します。これからも『スキップとローファー』を娯楽として気楽に楽しんでいただきたいことには変わりはありませんが、時々、被災地の事を気にかけていただけると嬉しいです。そして、面倒が理由で連絡を先延ばしにしていた親しい人に会いに行き、一緒においしいご飯を食べてください。

#### ■作品の見どころ

勉強以外はちょっと抜けているけど、何事も一生懸命な主人公・岩倉 美津末 (いわくら みつみ) の素直さやポジティブさに触れることで、周りのクラスメイト達もいつの間にか心がほぐれたり、自分なりに頑張ってみたりと影響を受けていきます。美津末以外の

【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社 BookLive 広報・PR 担当：井ノ口、西村、尾崎 e-mail：[booklivepr@booklive.co.jp](mailto:booklivepr@booklive.co.jp)

クラスメイト達も個性豊かで魅力的。学生時代に誰もが経験した友人関係や恋愛のモヤモヤと一緒に悩んでくれる“みつみちゃん”やクラスメイト達にきっと元気をもらえるはずです。

## ■ 評価ポイント

作品賞は、最大巻数 10 巻を上限に、2023 年に単行本が発売された、もしくは発売予定のマンガ作品を対象としたノミネート作品から審査員が選出しました。連載開始から日が浅く、今後の盛り上がり期待する作品にフォーカスする意見も上がった一方で、アニメ化を果たし、9 巻が発売された『スキップとローファー』は 2023 年により多くの読者に届いた 1 年となったことから、作品賞が贈られました。

- 人物の解像度が非常に高く、心の機微を繊細に表現していて、1 人 1 人がそこにいるような感覚を覚える。物語の世界観は優しさにあふれているが、高校生の不安定でささくれ立ってしまう気持ちや不器用さが表現されているところに共感。さまざまな人に寄り添ってくれる、今の時代に合った作品。
- 特定のキャラクターだけを表彰するのではなく、作品全体の世界観を賞賛したい。

## ■ マガデミー賞 2023 キャンペーン情報

マガデミー賞 2023 の受賞キャラクター・受賞作品および、ノミネートキャラクターが登場するマンガ全作品・作品賞ノミネート作品がお得に購入できるキャンペーンを、総合電子書籍ストア「ブックライブ」と honto 電子書籍ストアにて、期間限定で実施します。

詳細は、各書店のキャンペーンページよりご確認ください。

- ブックライブ：<https://booklive.jp/feature/index/id/cp2024031350>
- honto：<https://honto.jp/cp/ebook/2024/magademy-award.html>

## ■ 最終審査ウラ話：

お笑いトリオ・ハナコ「カリスマに限らず共感・応援できるキャラクターへもスポットライトが当たるように」「（マガデミー賞をきっかけに）これまで手に取らなかったジャンルのマンガも積極的に読むようになった」とコメント

### <審査基準>

主演男優・主演女優賞、助演男優・助演女優賞：「カリスマ性」「共感度」「名シーン」「実行力」「現代とのマッチ度」のポイント制  
作品賞：「作品としての魅力」「2023 年の注目度」のポイント制、およびキャラクターの作中での活躍、作品の良さ  
審査員特別賞：2023 年に輝いていた/多くの読者に勇気と感動を与えたキャラクターの各書店員による推薦制

ノミネートキャラクターから、各部門で受賞するキャラクターを決めるべく特別審査員のハナコさんと審査員の各書店員が、オンライン上で一堂に会しました。初対面の方が大半だった昨年度と比較し、今年度は続投する審査員が多数。冒頭から和やかなムードで審査会が開始しました。

各書店員が今回の審査会への意気込みを語る中、昨年の特別審査員の経験を踏まえてハナコの皆さんからは「審査方法が刷新され、カリスマ性や憧れだけでなく共感・応援できる身近なキャラクターへのスポットライトが当たりやすくなり、より公平に審査できるようになった」「（マガデミー賞をきっかけに）世の中にはまだまだ自分の知らない面白いマンガがたくさんあることを知ったので、これまで手に取らなかったジャンルのマンガも積極的に読むようになった」といったコメントが挙がり、マンガ好きに磨きがかかった様子を見せてくれました。

---

【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社 BookLive 広報・PR 担当：井ノ口、西村、尾崎 e-mail：[booklivepr@booklive.co.jp](mailto:booklivepr@booklive.co.jp)



審査が開始すると、和やかなムードから一変。今回は〈主演女優賞〉〈作品賞〉〈審査員特別賞〉で白熱した議論が行われました。

〈主演女優賞〉では今回受賞した茅野 うみ子さん（『海が走るエンドロール』）だけでなく、フリーレンさん（『葬送のフリーレン』）はアニメにも出演し、「子どもから大人まで、幅広い年代の方から支持されているのでは」といった声や、平均年齢が高い傾向がある今回のノミネートキャラクターの中で、猫猫（まおまお）さん（『葉屋のひとりごと』）の将来性を評価すべきでは、といった声も上がりました。

〈作品賞〉では、巻浅ながら絵の迫力や読み始めたら止まらない面白さの『龍とカメレオン』（スクウェア・エニックス）や、冒頭のインパクトや書店での売れ行きが凄まじい『ホタルの嫁入り』（小学館）にも言及されました。

特に審査が難航したのが〈審査員特別賞〉。各審査員がキャラクターをプレゼンする本賞では、受賞した『気になってる人が男じゃなかった』の2名の他にも、2023年前半に登場し話題を攫った『ねこに転生したおじさん』のブンちゃん（転生前のおじさん）にも票が集まり、複数回の多数決を経ても決着しない場面が見られました。最終的には、審査員による「カップル受賞とするのはどうか」の一声から全員の賛同が集まり、満場一致でのペア受賞が決定しました。

最後に、これからのマンガキャラクターたち、作品の躍進繁栄を願って記念撮影し、最終審査を終えました。

## ご参考

### ■「マガデミー賞 2023」概要

【名称】マガデミー賞 2023（英字表記：MAGADEMY AWARD 2023）

#### 【選考対象】

キャラクター推薦：2023年に単行本が発売されたマンガ作品のキャラクター

作品推薦：2023年に単行本が発売されたマンガ作品のうち、最大巻数が10巻までの作品

【受賞部門】主演男優賞、主演女優賞、助演男優賞、助演女優賞、審査員特別賞、作品賞の6部門で受賞者・受賞作品を決定



【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社 BookLive 広報・PR 担当：井ノ口、西村、尾崎 e-mail：[booklivepr@booklive.co.jp](mailto:booklivepr@booklive.co.jp)

【特設サイト URL】<https://booklive.jp/magademy-award>

【主催】株式会社 BookLive

【協力】三省堂書店、TSUTAYA、honto 電子書籍ストア、丸善ジュンク堂書店

【審査員（敬称略）】

■ 特別審査員：ハナコ

■ 審査員：

書店員 すぎ木（ブックライブ 書店員） | スギノ（ブックライブ 出版社営業担当 書店員） | 近西 良昌（三省堂書店 コミック売場担当 書店員） | 虎澤 佑紀（三省堂書店 コミック、ビジネス資格書、理工 PC 書売場担当 書店員） | 三宅 理恵（TSUTAYA コミック担当 書店員） | 荻野 晶（honto 電子書籍ストア コミックジャンル担当 書店員） | 小磯 洋（丸善ジュンク堂書店 営業本部 コミック仕入統括担当 書店員） ※各審査員の所属情報・肩書は、2023年12月時点のものとなります。

総合電子書籍ストア「ブックライブ」は、“いつも心に「マンガ部屋」を。”をコンセプトに、人生を豊かにする本との出会いと、心ゆくまで楽しむことができるサービスを今後も提供してまいります。

---

#### 【総合電子書籍ストア「ブックライブ」について】

ブックライブは、2011年よりサービスを開始し、豊富な品揃えで100万冊以上配信する国内最大級の総合電子書籍ストアです。読者の利便性を最優先に、いつでも、どこでも簡単に楽しめるサービスを提供しています。

- 総合電子書籍ストア「ブックライブ」 <https://booklive.jp/>
- 公式 X（旧 Twitter） [https://twitter.com/BookLive\\_PR](https://twitter.com/BookLive_PR)

---

#### 【株式会社 BookLive について】

BookLive は「新しい価値を創造することで、楽しいをかたちにする」を企業理念に、電子書籍ストアやマンガアプリ等の運営を通じて、読者の心を豊かにするコンテンツの提供や IP の創出を行っています。またテクノロジーが進化するなかで、クリエイターやコンテンツの価値向上を目指すと共に、新たなビジョンとして「グローバル・デジタル・エンターテインメントカンパニーへの飛躍」を掲げています。

当社は今後も BookLive グループの強みを活かし、様々な企業と連携することで、より良質なコンテンツを生み出し続けるエコシステムを構築していきます。

URL： <https://www.booklive.co.jp/>

本文中に記載されている会社名、サービス名及び製品名等は各社の登録商標または商標です。

---

【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社 BookLive 広報・PR 担当：井ノ口、西村、尾崎 e-mail：[booklivepr@booklive.co.jp](mailto:booklivepr@booklive.co.jp)